

会報  
第22号  
2016年9月



一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田  
会報  
発行人/理事長 馬場信雄  
〒475-0836 半田市青山5-2-14  
TEL/FAX:0569-24-4324  
http://www.akarenga-handa.jp  
E-mail:redbrickhanda@yahoo.co.jp

## NEWS目次

1. 1周年感謝祭 大正村とコラボ！！
2. 大正カフトビール復刻物語
3. 待望の事務所開設
4. 「新春合宿」～新たなる歩に向けて～
5. “ひな祭り”を開催

6. 特別展“創建時のレンガ展”開催
7. “半田市ふるさと景観賞”受賞

### 今後の事業計画

- ① 赤煉瓦探検隊始まる！！
- ② 2016赤煉瓦ネットワーク半田大会

## ■ NEWS 1

### 1周年感謝祭 大正村とコラボ！！

平成28年7月16～18日、半田赤レンガ建物リニューアルオープン1周年感謝祭が開催されました。

半田赤レンガ建物は、明治時代にビール製造工場として建設され、第2次世界大戦中は、中島飛行機の衣糧倉庫に、戦後はコンスターチ製造工場に使用されました。コンスターチ製造工場の頃は、工場から出る悪臭で中学



校の通学路だった私達は建物の横を歩くときには、息を止めていたものでした。平成6年に工場が操業を終えましたが、幸いにも赤レンガ建

物のはのこりました。

元々歴史好きレトロのものが好きな私は、建物に興味があった事で、赤煉瓦倶楽部半田に入会させていただきました。

明治のカフトビールの復刻のあと今年は大正カフトビールの復刻もしました。1周年の感謝祭では、大正つながりということもあって岐阜県恵那市の大正村の方々に応援に来ていただき、蓄音機など大正時代のものを展示していただいたり



大正時代のカフェの衣装を貸していただき日本福祉大学女子メンバーに着てもらい館内はレトロ感満載でした。

明治・大正・昭和・平成の110年の間には、東南海地震・三河地震・半田空襲などに見舞われながらも当時の姿を残しており、今

でも北側壁面に残っているP-51の機銃掃射の跡などは戦争の歴史が感じられます。

今後、全国からの来場者が大勢お越しいただき半田赤煉瓦建物で歴史を感じていただきながら明治・大正のカフトビールを味わっていただき楽しんでもらいたいと思っています。(榊原里江 記)

## ■ NEWS 2

### 大正カフトビール復刻物語

平成26年秋のある日、関係者から「大日本洋酒雑誌沿革史」という資料をもらった。その中に麦酒の部があり、何気なく目を通していたところ25頁に目が止った。一瞬目を疑った。なんと大正2～3年頃の加富登麦酒の分析表が載っているではないか。明治カフトビールの次は、大正カフトビールの開発をと思っていただけに、宝くじに当たったような気分になった。

平成27年1月に早速製造元の知多麦酒へ資料を持ち込み、明治同様文献に忠実に復刻をしてほしいとの要請



をした。カフトビールのマッサンこと、工場長は快諾してくれた。そして、

11月に第1回目の試飲会。結果は、文献等と少し距離感があったため、原点に戻り、もっと忠実に再現するために「あいち産業科学技術センター醗酵バイオ技術室」の専門家の先生の指導を仰ぐことにした。そして、試行錯誤の上出来上がった復刻ビールを再度平成28年1月に試飲会。専門家の先生方にもご参加いただき実施。結果、評価も高く、思った通りの復刻大正カフトビールが完成した。そして7月16日に新発売をした。明治の息吹とともに大正浪漫の味との飲み比べを楽しんでいただきたいと思っています。(馬場記)

### ■ NEWS 3 待望の事務所開設

一般社団法人に移行し、定款には建物並びに起業家精神を後世に引き継ぐことを第一の目的とすることを盛り込みました。そして、具体的な事業として4つの柱(1、調査研究事業、2、企画事業、3、広報事業、4、組織強化事業)を掲げ、活発な活動を進めています。その中で平成28年2月、活動の



拠点となる、念願の事務所を開設しました。JR半田駅前の繊維会館2Fにあり交通の便がよいところ。毎月第一水曜日に定例理事会があり、事業推進の打ち合わせや各委員会活動として事務所が活用されています。

事務所には、ご寄付による冷蔵庫も完備されました。将来的には、倶楽部員であれば誰でも入室でき、赤煉瓦資料の閲覧をはじめ、赤煉瓦建物の運営、活用アイデアを自由に話し合える場として活用していきたいと思っています。(小林記)



て活用していきたいと思っています。(小林記)

### ■ NEWS 4

#### 「新春合宿」～新たなる歩に向けて～

赤レンガ建物がOPENして約半年が過ぎようとしている中、倶楽部恒例の「新春合宿」が平成28年2月13日(土)14時半より成岩公民館にて開催されました。

倶楽部の一年の活動方針を決めていくにあたり、参加者



から垣根無く意見や想いをぶつけ合う場として、今回も白熱した合宿となり、今更ながら合宿の必要性、重要性を感じる場となりました。

ご来賓として赤レンガ建物の新館長に就任されました宮道利典様にもご出席をいただき、倶楽部との連携や赤レンガ建物の魅力発信について熱く語っていただき、議事では今秋に赤レンガネットワーク全国大会を半田で開催することや新たに倶楽部組織として運営委員会を設置したことに触れ、各委員会の事業計画を発表し議論を交わしました。

その後の懇親会では、新規メンバーも加わりいつもながら楽しく盛上って、時を惜しみつつお開きとなりました。次年度は更に多くの倶楽部員にご参加をいただけたらと願っております。(左右木 記)

### ■ NEWS 5 “ひな祭り”を開催

はんだ威のまち桃の節句事業と連携し、工事期間中断していた「ひな祭り」を再開。



平成28年2月27・28、3月5・6の4日間開催した。スタンドグラス雛、ガラス雛、

土雛等を展示、やさしく幻想的に光るお雛様は、多くの来場者を魅了した。その中には大きなカメラを抱え、熱心にガラスのお雛様の写真を撮るマニアの方も多くなりました。また、桃の節句にちなんだ花ふところ餅作り、レン

ガにお雛様を描くレンガペイント、ミニレンガによるレンガ積み体験などのワークショップは家族で訪れた来場者に好評で、楽しいひな祭りのひと時を満喫していた



できました。さらにショップコーナーでは、カプトピール関連グッズのコーナーを特設、建物無料ガイド、商工会議所女性部のお抹茶・親子でお雛さんの制作など、半田ならではの桃の節句を楽しんでいただき、幅広い年齢層の方々に半田赤レンガ建物の魅力を感じていただくことができました。(平岡 記)

## ■ NEWS 6 特別展“創建時のレンガ展”開催

平成 28 年 5 月 1 日から 20 日まで 20 日間、3 年ぶりにテーマ性の特別展を開催した。

会期中の入場者数は約 8, 000 人と多くの方々にご来



場いただいた。当倶楽部は平成 6 年に半田赤レンガ建物の保存・活用活動を開始した。平成 14 年～平成 25 年の 12 年間、公開事業を中心に、ひたすら建物並びにカプトピールの魅力を訴え続けてきた。

特に 5 月のゴールデンウィーク時の公開を特別公開と銘打ち、テーマを掲げて調査・研究の成果を発表してきた。常



時公開施設となり、再び以前の特別公開時同様にテーマ性をもった特別展を開催することにした。再開 1 回目のテーマを何にすべきかと過去のテーマを振り返った結果、一番基本となる「レンガそのもの」に焦点を当てたことがないことに気づき、今回のテーマを「創建時のレンガ

展”半田赤レンガ建物のレンガはどこで造られたのか?”にした。創建時のレンガは安城市の岡田煉瓦製造所で造られ



た。当初は「岡田煉瓦 100 年史」を紹介する程度で考えていたが、準備を進めるうちに領域がどんどん広がり、最終的に東日本大震災時の奇跡の話にまで展開することになった。今回の特別展開催にあたり、多くの関係者の方々にご協力をいただいた。特に、株式会社岡田煉瓦製造所、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、浦賀歴史研究所、NPO 法人愛岐トンネル保存再生委員会、中京テレビ放送株式会社様には絶大なるご協力、ご支援をいただいた。また、会員には交代で毎日受付を担当していただいた。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。(馬場 記)

## ■ NEWS 7

### “第 3 回 半田市ふるさと景観賞”受賞

平成 4 年(公社)愛知建築士会 半田支部創立 40 周年記念事業としておこなった「半田市都市景観賞」が実を結



び、平成 7 年半田市主催の第 1 回「半田市ふるさと景観賞」がおこな

われてから 20 年の歳月が流れた。10 年に 1 度おこなわれるこの景観賞も今年で 3 回目を迎えた。今回は地域活性化や優れた景観形成に貢献した個人や団体、また まちに活力を与える市民活動やイベントなどにもより一層焦点をあてて選考しようという事となり、209 点、156 箇所の応募推薦があり、1 次審査 2 次審査を経て 6 点が選択された。そして、選定と選定の間の 10 年間で、まさに景観を創り育て守ることだと選考委員長 村上先生もおっしゃっておられる。半田赤レンガ建物の保存再生活動に取り組んできた倶楽部の情熱が選考委員に伝わって大変うれしく思っています。(永田 記)

## ■ 定 款 (抄)

### 【法人の名称】

一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

### 【目 的】

当法人は、貴重な旧カプトビール工場の半田赤レンガ建物及び旺盛な起業家精神を顕彰するとともに、後世に引き継ぎ、それを活かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に関係するネットワークと連携し、赤煉瓦を活かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

### 【会 費】

- (1) 入会金 1,000 円
- (2) 年会費
  - ① 個人会員 2,000 円
  - ② 法人・団体会員 10,000 円  
(団体は 10 名以上)
  - ③ ボランティア会員 無料

### 【活動年度】

毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

総会は、毎年 1 回開催する

### 【運 営】

当会の運営は理事会で行う。運営にあたり次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上
- (2) 監事 1人以上

理事のうち、一人を理事長、2人を副理事長とする。

### 【事業年度】

毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの年 1 期とする。

## ■ 編集後記

夢の又夢とさえ思っていた半田赤レンガ建物の常時公開が今年の 7 月に実現した。JT B<sup>7</sup> ㈱が指定管理者になり管理・運営が始まった。その中で当倶楽部の歩むべき道は??? 議論に議論を重ね、導き出した答えが上記の定款に記載している目的事項を愚直に推進していくことだった。そしてその柱事業として調査研究事業をすえた。5 月に開催した特別展は中心的な事業でした。今後も定期的に調査研究を行い、当倶楽部しかできない特別展を実施していきたいと思っています。(馬場)

## 今後の事業計画

### 【1】赤煉瓦探検隊始まる！！

半田赤レンガ建物は昨年 7 月にリニューアルオープンし、管理・運営は JT B<sup>7</sup> ㈱に委託されました。今後当倶楽部の活動は、定款に記載した「建物並びに起業家精神を後世に引き継ぐこと」を愚直に進めていくこととしています。事業の中でも調査研究事業を第一の柱に掲げています。このたび調査研究事業の一環として「赤煉瓦探検隊」事業を開始しました。知多信用金庫夢サポート事業にも採択されました。

赤煉瓦探検隊の[事業の目的]は、①半田市内の赤レンガ建物及び構築物を調査し、マップ化することで、市民に赤レンガへの興味を深めてもらう事 ②まちめぐり企画の実施による、半田市内回遊性の向上です。

[具体的な内容]は、①一般から半田市内の赤レンガ建物・構築物等の情報収集 ②会員はもちろん一般から探検隊員を募集し調査することです。

[進捗状況]ですが、探検隊参加者は合計 27 名、内一般が 14 名です。調査は、1 回目 9 月 1 日、2 回目 1 8 日実施し、3 回目は 1 0 月 2 2 日の予定です。

ご興味のある方は途中からでも結構ですから、ご参加ください。

### 【2】2016 赤煉瓦ネットワーク半田大会

2005 年以来、2 回目となる全国大会が今年 1 1 月に開催されます。全国の赤煉瓦建物等の保存・活用に活動している仲間たちと交流をしませんか。

9 月 3 日付けで、会員各位には案内書・申込書を発送しました。ぜひご参加ください。

日時：2016.11.5 (土)～11.6 (日)

会場：半田赤レンガ建物

主催：赤煉瓦ネットワーク、一般社団法人赤煉瓦倶楽部半田

後援：半田市、半田市教育委員会、半田市観光協会、

株式会社 JT B<sup>7</sup> ㈱、清水建設株式会社、日本福祉大学

スケジュール・会費：

11.5 (土) 14:00～17:00 **シンポジウム** (会費; 1,000 円)

・基調講演 (清水建設) 上席マネージャー 宇野氏)

・活動報告 (奈良、北九州、群馬、敦賀、半田)

18:00～19:30 **懇親会** (会費; 5,000 円)

※生カプトビール、ドイツ料理

11.6 (日) 8:30～15:30 **見学会** (会費; 2,000 円)

・見学先 (MIM、半六邸、小栗邸、酒の文化館)